

会話式キリスト教弁証学（パート3）

障壁を見つけるには

どうしたら水面下にあることを掘り起こし、
未信者の**本当の反論**を探ることができるか？

デビッド・ゲスラー

この会話形式の弁証学の第一回シリーズでは、まだ福音を信じていない段階にいる友人たちのことをどのように理解していけばよいかを**取り上げた**。その中で、**まず必要なことは、彼らの話しを熱心に聞くということだ**ということ**を学んだ**。その次に**ステップ2で触れたのは、防御的態度になるのを最小限とし聞きたいという好奇心を引き出しつつ、不確かな点を探り当てるような質問をすることで真理を浮き上がらせるようにすることであった**。そして**ステップ3は「人々が福音を受け入れるために障壁となっているものを取り除くことができるように助ける。」**ことである。

今日まわりの人たちに効果的に伝道していくために、福音を宣言するだけでは十分でないのと同様に、人の信条を分解する以上のことをしなければならない。解体するようなアプローチを試みると、相手に感情的、知的面に負荷がかかり、キリストを伝えることさえできなくなってしまう。私は過去にキリスト教信仰について答えることが難しい質問を何度も受けたことがあるが、そのような質問自体がキリストを信じる妨げとなっているものではないことに気づいた。エレミヤは17：9で人の心は陰険で、欺きに満ちていると語っている。ですから、人の心の奥底に隠された障壁を明らかにするのは至難のわざである。

私たちは、他の人々の信じていることの中に矛盾点を見つけることを怠ってはならない。なぜなら、ポストモダンの時代に生きている人々は、そのような矛盾の中で、居心地よく長きにわたって生きてきており、その生き方を変えたいとは思わないからである。多くの場合彼らは、彼らにとって馴染みのない生き方をするよりは、幾分歪められたものであっても、今までどおりの生活をする方がいいと考えるのである。

考古学者のように、私たちは彼らの背景を探って、何が障壁となっているか、どのようにしてそのような状態に至ったのかを知りたいと思う。箴言20：5に「人の心にあるはかりごとは深い水、英知のある人はこれを汲み出す。」と書かれている。効果的に伝道を行っていくには、洞察と知恵が必要である。それには、人々の疑問や反対に**答える**だけでなく、彼らの心の奥底にあるものを探っていく必要がある。聖霊の導きに敏感になると、私たちは人々を神との関係について考えさせなくしてしまっているものが何か識別することができ、またキリストの真理を見えなくさせてしまっているものを取り去ることができる

ようになる。

そのためには、私たちは聖霊に知恵と導きを求め、(ヤコブ1：5) 少なくとも次の6つのステップを心に留める必要がある。

まず第一に私たちは、彼らの論点が理に叶ったものなのか、覆いがかかっているかを見極める必要がある。質問は、聞き方によって、真理を見えなくさせてしまうことがあるので、次のように的確に問うことをお勧めする。「もし私の答えがあなたを納得させるなら、神とキリスト教を信じることに真剣に考えてみることができますか？」もし彼らが「ノー」と答えたら、彼らが信仰へと導かれる障壁となっているものは、知性に起因しているものではないことがわかる。そして、次のように問い直すことができる。「あなたにとって障壁となっているものは、知的なことに関わるものではないようですね。感情面、霊的なものといった何か別の種類のようなようですね。違いますか？」このように聞くことによって、この人の質問やあげている事柄が妥当なものか判断することができ、真理を求めようとしない人々と長い時間を費やす時間の無駄を省くことになる。

隠れた障壁を見つけるための第二のステップは、それが知的なことなのか、感情的なものか、それとも両方が合わさったものなのかを知ることである。たとえば、だれかが私に悪霊の問題について聞いてきたとする。その時、私は自動的にその問題が知性に根ざしたものであるとは考えない。この問題に葛藤している人たちの多くは、感情的に動かされてこのような質問をしてくるからである。おそらく彼らの知っているだれか、愛するだれかがこのような痛みの経験をしているのであろう。そこで、私は彼らに「この質問はなぜあなたにとってそんなに大切なのか」と聞く。こう問うことによってそこに感情が表出し、彼らと会話を進めていくことができるからである。また、次のような質問の中には、感情を掃き出していることが表されている：「神が慈しみ深い神であるなら、なぜこのような災いや悪がこの地上に起こるのを許されるのか？」「神が現実のお方なら、教会の中になぜこんなにも多くの偽善があるのか？」

知的に訴える質問として、次のようなものがある：「キリストが生きていた時代から長い年数がたっている。現代に生きる私たちは彼の言ったことをどのように知ることができるのだろうか、多くの人々が多くのことに反対している現状において、そこに絶対的な真理を知りうる可能性があるのだろうか？」「聖書が何度も誤訳されてきたので、どうして聖書が元来伝えようとしていることを確信することができるのか？」このような知的で困難な質問に対処するには、反対側から問うてみるのがよい。たとえば、誰かが聖書に書かれていることは信用できないと言ったとする。そこで、次のように質問するのである。「あなたは他の古典やずっと昔に書かれた書物の内容を受け入れているのに、なぜ聖書に書かれてい

ることを拒絶するのですか？」

人が知的、感情面において、どのような傾向を持っているかを識別するのは簡単ではない。これは科学的に分析するというよりは、アートのなことである。実践と経験が必要であり、何よりも神からの知恵を必要とする。彼らを悩ませている本当の問題は感情的なことであるのに、知的に障壁を崩そうとして話してはならない。更に大切なステップについて、話を進めてみよう。

隠された障壁を見つける3番目のステップは、人が持っている精神的な重荷をどのように見つけるかである。精神的なことがトラウマになって、クリスチャンメッセージを受け入れることが難しくなっている人たちがいる。私は以前、ある大学生にイエスについて話していたことがあるが、なかなか話が進まなかったことを思い出す。イエスのことを伝えようとしても、何かが妨げになっているように思えた。かなり話してから、彼は最後に会ったクリスチャンが「エイズは同性愛者に対する神からのさばきである」と語ったことを告白してくれた。彼のこの告白によって、私はなぜ彼となかなか話しが通じなかったのがわかったのである。彼はずっと傷ついていたのである。未信者の友人の中には、傷ついているあまり、イエスのことが聞けなくなっていることがある。また、子ども時代の否定的な経験や、熱心に宗教を押し付けてきた両親に対する反発によって、キリスト教に興味をなくしてしまっているケースもある。私が聞いた中で最も多い理由は、教会内の偽善に関することであった。感情に起因する理由は、福音の伝える真理を聞く妨げとなるので、私たちはこれを解決する対策を考えなければならない。何らかの感情的な問題が絡んでいると気づいた時、私たちは彼らがそれについて話しやすいようにしてあげる必要がある。彼らの痛みを理解と同情を示す必要がある。また、クリスチャンの兄弟姉妹の誰かが間違っただけを言ったり、行ったりして、何らかの痛みが生じたのだったら、その兄弟姉妹に代わって私たちが赦しをその人に求める必要がある。それによって、彼らが罪の現実に気づき、人生にキリストが必要であることについて考えるようになるかもしれないからである。同時に、神が彼らのことを愛しておられることを確信させる必要がある。それによって、その人は私たちに自分のために祈ってほしいと願うようになるかもしれない。事実、彼らが困難に直面している時、彼らのために祈っていることを伝えたと、彼らはキリスト教に光を見出すようになり、霊的なことについて話すきっかけが開かれていく。人を思いやることは、説得することよりもはるかに効果的である。

隠れた障壁を外す4番目のステップは、人々が持ち出した疑問や関心事の根底にあるものが何かを見極めることである。時にはどうしてこの質問や関心事が大切なのかについて確認する質問をすることが助けになることもある。何か覆いになっているものがないか探ってみるべきである。たとえば、未信者が次のように言うかもしれない。「イエス・キリスト

だけが神に導くことのできる唯一の方法であるというキリスト教の教えは高ぶりだと思
う」彼らは、クリスチャンはそうでない人たちよりもすぐれていると考えていると感じて
いるのである。そこで私たちは高ぶっているのでも、偏見を持っているのでもなく、真実
であると信じているのだということを明確にする必要がある。だから私たちは真理を伝える
時、**謙遜で柔和な**態度で臨まなければならない。

イエスは人々と討議をする時、どのように人々を核心へと導けばよいかを知っておられた。
富んだ男性が「尊い先生、永遠のいのちを自分のものとして受けるためには、私は何をし
たらよいでしょう。」と尋ねた時、イエスは「なぜ、わたしを『尊い』と言うのですか。」
と答えた。(マルコ10：17-18) イエスはご自身がだれであるかを知らしめようとさ
されたのである。富んだ男性が「自分は律法を守っている」と考えた時、イエスは彼の心が
何に捕われていたかを現わされた。(マルコ10：22) 同じように、私たちが福音を他の
人々に分かち合おうとする時、彼らに福音を受け取らせなくしているものが何か掘り起こ
す必要がある。

隠れた障壁を外す5番目のステップは、彼らにキリスト教を受け入れなくさせている一番
大きな壁となっているものは何かを見つけることである。人々が抵抗する理由にはありと
あらゆるものがある。けれども、その中から最も難しいものは何かを識別しなければならない。
未信者の心の中を探って、何が一番大きな妨げとなっているのかを知ることができ
るように導いていくのである。そして、キリスト教信仰に対してどのような疑いを持って
いるのか、それは知的面で折り合わないのか、感情的に折り合わないのか知るように助け
るのである。以前アジアの学生と話していた時、彼は「神やキリスト教を信じるのに一番
大きな壁となっていることは、もし自分が信者になったら、他の人々が自分をどのように
考えるかが気になるからである。」と告白した。彼は自分がクリスチャンになると、両親が
どのように考えるだろうと気になったのである。少し前、シンガポールで私が教えたクリ
スチャン学生のひとりが未信者の友人に次のように尋ねてみたそうである：「キリストを受
け入れさせなくしているものは何か」その友人はそのようなものは何もないと考えたので、
その場でキリストを自分の人生に受け入れる決心をしたそうである。

私が話した別の学生たちは、答えてほしい知的な質問があるということであった。ひとり
は「イエスは2000年も前に生きた人なので、彼がどのようなことをし、語ったのか、
理解することができない。」と言った。そこで、私はウィリアム・レーン・クレイグの書い
たイエス・キリストの復活を立証する記事を渡した。この記事は彼の疑問を知的に解消す
るのに役立つようである。知的な障壁となっているものを崩すことは、人々が自分自身
に向き合い、キリストを信じさせなくしているものが何かを知る大きな助けとなる。(エレ
ミヤ17：9)

6番目、最後のステップは、その未信者がキリストについてその質問への答えを知りたい動機を見つけ出すことである。どうしてキリスト教に興味を持っているのかを知ると、彼らと話す時、どのように話しを核心へと進めていけばよいかわかるようになる。ある人は次のように応答した。「私の母は3年前自殺をしたので、私は神のこともキリスト教のことも信じることができない。けれども、神が存在しないのなら、人生に意味も目的もないはずだ。でも、今はまだ受け入れることができない。」別の人は、母親を数年前に亡くしたが、母親は天国にいると信じていると語ってくれた。彼の場合、私と話すことによって、母親と再び会いたいということが動機となった。壁を取り除いて、福音へとつなぐかけ橋を架けるのに、動機を探るのはとても大切なことである。

これらの6つの要因は、キリストを信じる妨げとなっている本当の障壁を浮上させる助けとなる。私たちはだれかと会話をする時、そこに語られていなくても、水面下に何か霊的なしるしがないか求め続けていく必要がある。これらの6つの要因に集中していくと、彼らがキリストを信じていくプロセスへと導いていくことができる。これらの要因に集中するだけでは、人がキリストを受け入れるという答えはすぐには得られないかもしれない。けれども、イエス・キリストに近づくためのステップを踏む助けになることは確かである。

フィードバックは次のところにしてください：dg@meecknessandtruth.org

知恵のことば

効果的な伝道とは、相手が自分の願う状態にいないところから始まるのである。

作者不詳